

道徳の授業づくりで大切にしたいことは、**道徳科の目標を踏まえ、道徳的価値に基づいた上で児童生徒に何について考えさせ、何に気づかせたいのか**を教師が明確にもつことです。

実践例

資料名：「席を譲ったけれど」（中学校1学年）B-（6）思いやり、感謝  
本時のねらい：資料を通して、他者への思いやりとは何かを考えさせ、感謝と思いやりの心をもって行動しようとする実践意欲と態度を育てる。

授業づくりのポイント1

重点を置く内容項目の確認をする

四つの視点



◎学習指導要領解説で確認する



内容項目の概要の中に、中学校3年間に学ぶことが必要と考えられる**道徳的価値**が含まれています。

P.36参照

B 主として人との関わりに関すること

6 思いやり、感謝

内容項目

思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

中学校  
↑  
小学校

- (小学校)【親切、思いやり】  
 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。  
 【第1学年及び第2学年】 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。  
 【第3学年及び第4学年】 誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。  
 【第5学年及び第6学年】  
 (小学校)【感謝】  
 【第1学年及び第2学年】 家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。  
 【第3学年及び第4学年】 家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者などに、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。  
 【第5学年及び第6学年】 日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。

小学校6年間と中学校3年間を視野に入れ、各学年の指導において、常に**全体の構成や発展性を考慮して**指導していくことが大切です。

内容項目の確認をすることで、本時で目指す生徒の姿をより具体化したり、発達段階に合わせた内容を焦点化したりすることができます。

授業づくりのポイント2

学習活動に沿った振り返りをイメージする



【ゴールイメージ（振り返りの例）】

もしぼくがこの中学生の立場だったとしても、親切で行った行為を否定されたら、怒りや悲しさを感じると思う。

でも、今日の学習で、相手にもそれぞれ主張や思いがあることが分かったし、様々な場面で自分も人から理解や共感してもらい、支えられているのだと感じた。

思いやりをもつことだけでなく、お互いの存在を肯定的に受け止め合うことで、共にかけがえのない存在であることを感じる大切だと分かった。

これからは、互いに支えあう経験を積むことで、今自分が相手に対して何をもって応答することができるのかを考えながら、気持ちを言葉にして伝えていきたい。

解説P.36、37参照

【目標に示される学習活動】

- ①道徳的価値についての理解
- ②自己を見つめる
- ③物事を広い視野から多面的・多角的に考える
- ④人間としての生き方についての考えを深める

解説P.14～18参照

授業づくりのポイント3

生徒の今後の考えや行動へつなげる展開の工夫をする

展開の工夫例

- 資料の提示の仕方
- 役割演技
- 学習形態等（個・グループ）

人間としての生き方についての考えを深めている生徒の姿

学んだ道徳的価値に基づいて、自分の行動への価値付けができるような展開の工夫が必要です。

相手の立場や思いがあるから、周りの様子をみたり、見守ったりする方法もあるかもしれないな。

「人は難しい」から、気持ちが伝わらないこともあるかもしれないけど、ぼくは必要だと感じたら声をかけたいな。



「授業づくりのポイント」を意識しながら教材研究をすることで、本時で学ぶ道徳的価値をより焦点化することができます。



指導案を作成する際にも、「授業づくりのポイント1～3」を意識してみてください。